

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 20 年 11 月 17 日 開始 13 時 分 ~ 終了 18 時 30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 港ヶ丘 (鹿児島県)
評価調査員の氏名	氏名 腰 高行
	氏名 藤田 泰洋
事業所側対応者	職名 管理者 計画作成担当者
	氏名 水本 優香 中川 智子
	ヒアリングを行った職員数 (3) 人

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 2008年11月17日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4679100166号
法人名	有限会社 ソフィア・インターナショナル
事業所名	グループホーム 港ヶ丘
所在地	〒891-7012 鹿児島県大島郡徳之島町亀徳2239番地 (電話)0997-81-1215
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	〒891-0102 鹿児島市星ヶ峯4-2-6
訪問調査日	平成20年11月17日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年 9月 17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 2 人、非常勤 6 人、常勤換算 8 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	200 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 89.3歳	最低	76歳	最高	99歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	徳之島徳洲会病院 太歯科医院 くらもと眼科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、亀徳港を見渡す小高い位置にあり、海に向かって広がる景観の中で、ゆったり、伸び伸びした生活がくり広げられている。事業所は利用者に、質のより高いケアサービスを展開するために、職員の育成に力を注ぎ、資格取得の支援を積極的に進めている。職員は利用者の持てる能力を引き出すために工夫を重ねながら、ともに支え合い、仲の良い関係を築き、楽しいホームとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 重度化や終末期に向けた方針の共有は、引き続き検討中であるが、地域密着型サービスとしての理念の見直しは、職員間で検討して改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員が気づいた点について記入するという方式で、ほぼ全員で自己評価に取り組んでいる。ケアの質を向上していこうとする考えで評価を実施している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議の主な討議内容は、ホームの状況報告や協力要請のほか、委員からの助言や情報の提供などである。会議で地域代表からアドバイスを受けたり、家族代表からの地域との関係づくりの意見を、サービスの向上に活かすなど有意義な取り組みをしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 連絡ノートや意見箱の設置などの取り組みをしている。家族会や運営推進会議で家族の意見を表明する機会があり、また家族が意見を出しやすい関係づくりに取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩や商店での買い物などで地域住民との付き合いがあり、地域サロン活動で訪問を受けたりして交流が行われている。また、近くの道沿いの空き缶拾いをしたり、中学生の体験学習の受け入れなど、地域とのつきあいができている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を作り上げるため職員から意見を募集し、職員会で検討して地域との交流や地域に根ざしたホーム造りの理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼の時に理念を皆で読み上げるようにして、意識するようにしている。地域の人に声かけをして、顔見知りになり、利用者と地域の交流をするように支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や商店での買い物などで地域住民との付き合いがあり、地域サロン活動で訪問を受けたりして交流が行われている。また、ホーム近くの道沿いの空き缶拾いをしたり、中学生の体験学習の受け入れなど、地域とのつきあいができている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員が気づいた点について記入するという方式で、ほぼ全員で評価に取り組んでいる。少しずつ改善していこうとする考えで評価を実施している。外部評価は、改善点について検討して改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	散歩や地域サロン活動で地域との関係づくりについてアドバイスをもらい、地域との交流などサービスの向上に活かす取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	敬老会やグランドゴルフなどのホームの行事に、町担当者が参加している。また、台風の時などに様子を見に訪れたりして、担当者とは連携及び行き来がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	便りを発行するとともに、面会時に写真で暮らしぶりや健康状態・出納帳を報告している。遠方の家族には、毎月、手紙で知らせている。職員の異動は家族会や面会時に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	連絡ノートや意見箱の設置などの取り組みをしている。家族会や運営推進会議で家族の意見を表明する機会があり、家族が意見を出しやすい関係づくりに取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動によるダメージを少なくするために、異動については最小限にするように配慮している。止むを得ず異動があった場合にも新たな馴染みの関係ができるまで、折を見て前任者が来所してサポートしたりしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症関係だけでなく、できるだけホーム外の研修を受けるようにしている。毎月、法人での勉強会があり、ホーム内でも勉強会をしている。資格取得についても支援がされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列ホームや島内のホームとの勉強会を実施している。また管理者や職員は島外ホームとの交流があり情報交換をしている。ネットワークづくりの検討もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が決まると見学をしてもらって、本人と家族に雰囲気を知ってもらうようにしている。また、利用者とお茶を飲んだりして安心してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、菜園の手入れの時や郷土料理の作り方や味付けなど、利用者のアドバイスを受けている。また、時には利用者から「笑顔がいい」との優しい言葉で励まされたりして、共に支え合う関係になっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	リビングや部屋で個別に会話する機会を設けて、意向の把握に努めている。表情での把握についても、引き継ぎの時に伝えるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族に面接して状況や希望を把握するとともに、アセスメント表をもとに担当者会議で検討して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回のモニタリングをして、期間に応じた介護計画の見直しをしている。その間に大きな変化があった場合についても、見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援や理美容院の支援・買い物の付き添いなどの支援をしている。また特別な外出支援として、墓参りや誕生日の外泊支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望するかかりつけ医であり、毎月受診できる体制である。またいつでもホームとかかりつけ医が連絡がとれるようになっている。受診結果は家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期においては、利用者にとって最善のあり方を支援することとしているが、その基本的な方針については、検討中である。	○	重度化した場合や終末期の支援について、ホームのできる支援を職員間で協議して、家族と共有することが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを大切にすることを、普段からミーティングで話している。個人情報の保護については、入職時に誓約書をとって取扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝など自由である。入居者のペースで朝食など好きな時間で食べている。利用者の希望やペースに沿って支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を調べて食べたいものを提供するようにしている。利用者もそれぞれが下ごしらえなどできることをして炊事に参加し、職員も一緒に食卓につき、島唄が流れるなかで食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、順番で入ったり、希望により二人で入るなど気分よく入浴できるようにしている。夏場にはシャワーや足浴にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗洗い・野菜洗い・味付けなどの簡単な炊事や、漬物つけ・畑仕事の役割を支援している。また、絵画や三味線・カラオケなどの楽しみごとや散歩・買い物など気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物などの外出をしている。島を1周するドライブの支援もしている。希望により誕生日には外食をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な暮らしを支援するため、日中の施錠はしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導の消火・避難訓練を実施している。地域の区長等に参加を呼びかけている。区長を含む緊急連絡網は作成されている。台風前には食料と水の確保をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについて栄養士の指導を受けている。摂取量は記録している。水分を十分に補給するため個別に管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食堂は明るく掃除が行き届いている。廊下に椅子が置かれて、利用者同士がくつろげるようになっている。落ち着いた明るさの調整と換気がされており、居心地のよい共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子やタンスなどの日用品や洋服などの好みのものが持ち込まれ、利用者が自分の部屋として、居心地良く生活している。		